

新美術館整備方針

平成26年9月
大阪市





目次



1.新美術館のコンセプト	1
コレクションの概要	
中之島エリアの特徴	
2.新美術館の活動方針	4
3.新美術館の施設整備方針	5
(1) 施設整備の基本的な考え方	
(2) 新たな事業スキームの導入	
【参考】施設整備の概要（案）	
4.新美術館の運営方針	8
5.今後のスケジュールと開館までの取組み	9
(1) 今後のスケジュール	
(2) 開館までの取組み	

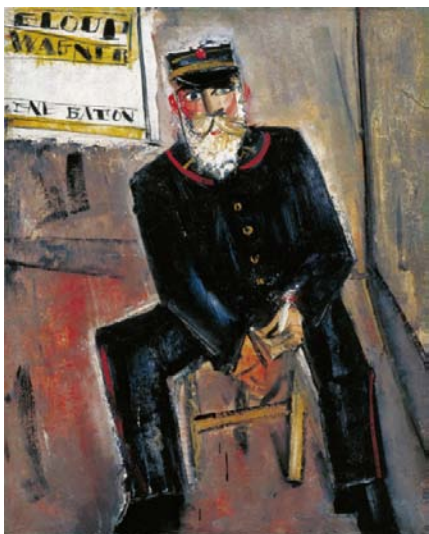


1. 新美術館のコンセプト

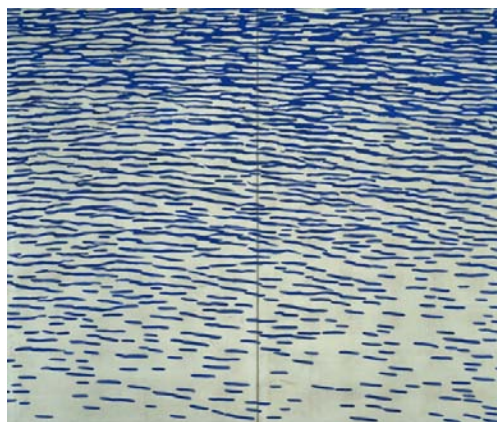
- 佐伯祐三や吉原治良に代表される大阪が育んだ作家の作品を中心とした第一級のコレクションを活かし、国内トップクラスのミュージアムをめざす。
- 「大阪と世界の近現代美術」をテーマとしたミュージアムとして、市立美術館や東洋陶磁美術館にはない、新たな魅力を創造する。
- 歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島を拠点として、文化の振興や都市の魅力向上に貢献する。
- 民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムとする。



アメデオ・モディリアーニ
《髪をほどいた横たわる裸婦》 1917年



佐伯祐三 《郵便配達夫》 1928年



福田平八郎 《漣》 1932年



倉俣史朗 《ミス・ブランチ》 1989年

【コレクションの概要】

○19世紀後半から今日に至る、日本と海外の代表的な美術作品：約4,700点（寄託品は除く）

- ・国内最大かつ最高水準の佐伯祐三作品とすぐれた近代絵画
- ・フランク・ステラやマーク・ロスコなど戦後美術の名品
- ・具体美術協会のリーダーである吉原治良作品約800点
- ・ウィーン工房などのデザイン作品約200点
- ・1万8千点を数えるサントリーポスターコレクション（寄託品）

※具体美術協会

1954年に結成され、大阪を中心に活動した前衛美術集団。吉原治良に率いられ、「人のまねをするな」をモットーに新たな時代の造形を国際的に発信。新美術館は活動拠点であった中之島の「グタイピナコテカ」近くに整備される予定。



吉原治良 《作品》 1965年



ウンベルト・ボッチョーニ 《街路の力》
1911年

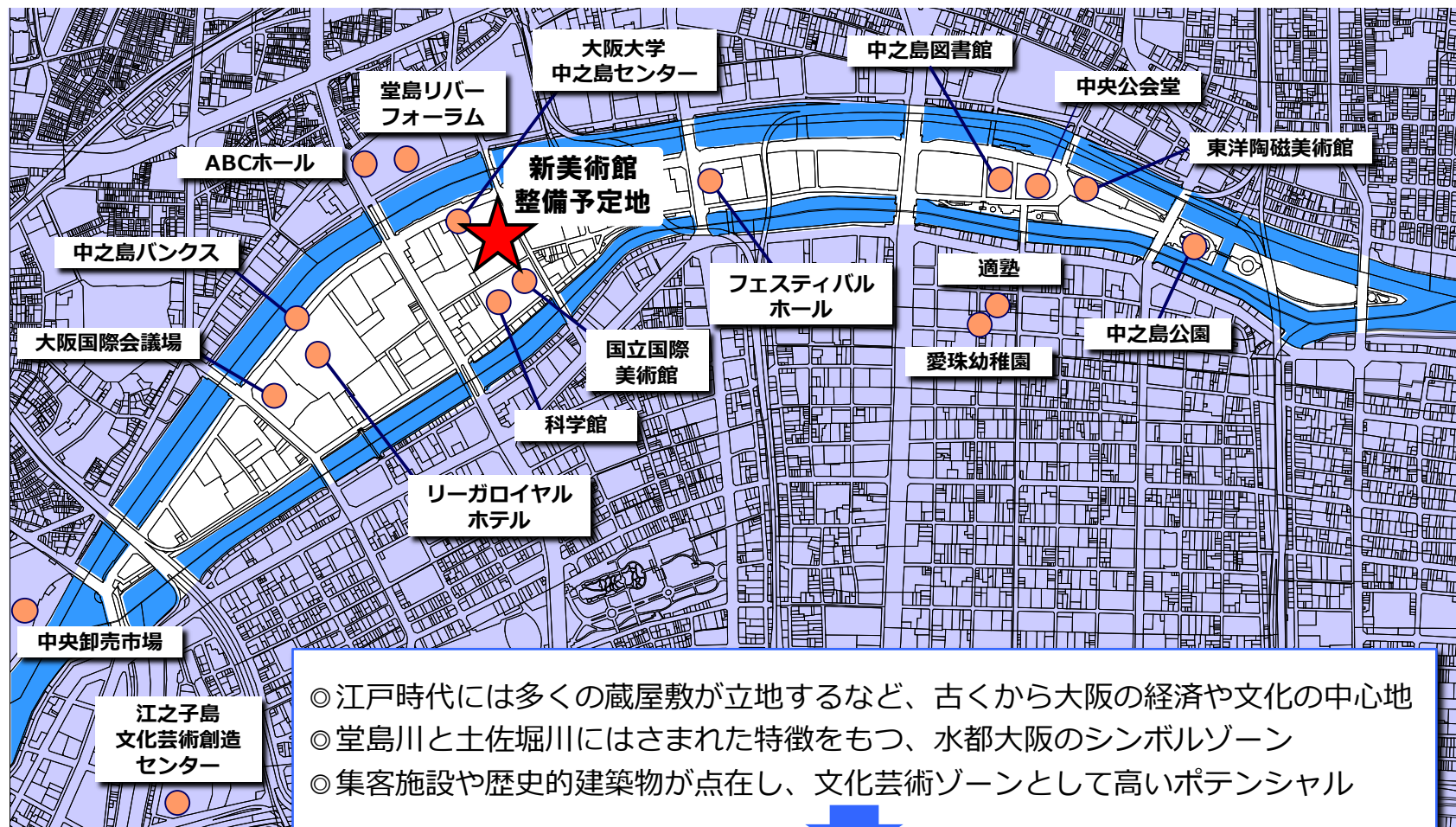


コロマン・モーザー 《肘掛け椅子》
1904年



ピーノ・パスカーリ 《海》 1966年

【中之島エリアの特徴】



- ◎江戸時代には多くの蔵屋敷が立地するなど、古くから大阪の経済や文化の中心地
- ◎堂島川と土佐堀川にはさまれた特徴をもつ、水都大阪のシンボルゾーン
- ◎集客施設や歴史的建築物が点在し、文化芸術ゾーンとして高いポテンシャル

中之島は、大阪府市で策定した「大阪都市魅力創造戦略」や「グランドデザイン大阪」で重点エリアとして位置づけられている

2. 新美術館の活動方針

○収集保存や調査研究の実施

- ・20世紀から現代にいたる国内トップクラスのコレクションを軸に、収集・保存活動を積極的に展開。
- ・中之島に拠点があった具体美術協会をはじめ、大阪・関西の近現代美術を中心として、特色ある研究を行い、広く発信。
- ・豊富な所蔵資料を最大限に活用して、世界に発信するアーカイブを構築。
(※アーカイブ=重要な記録(資料)を保存・活用する機能・機関)

○さまざまな分野との連携

- ・大学や企業、研究機関等と連携して調査研究を行い、その成果の普及に取り組む。
- ・アーティストやデザイナーと協働しながら、作り手と市民が交流し、ともに創造する機会(ワークショップ等)を提供。

○教育普及の実施

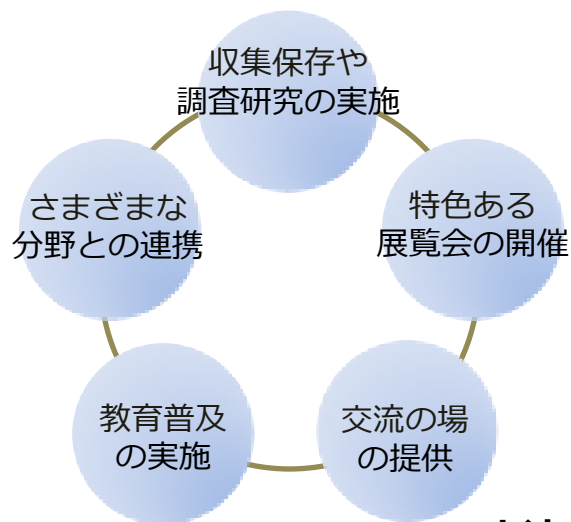
- ・学 校：アートを学ぶことにとどまらず、アートで学ぶプログラムを学校とともに推進。
- ・市 民：アートを通して、生涯にわたるまなびの場を提供。
- ・こども：ミュージアムに集まる作品やアーティストを通して、こどもの心や創造力の成長をうながす、まちの教室をめざす。

○特色ある展覧会の開催

- ・独自の文化を育み、優れた作家を育ててきた大阪の地域性も踏まえながら、これまでにないアプローチで魅力的な展覧会を開催。
- ・展覧会と関連したさまざまな活動を行い、市民にアートの価値をわかりやすく伝える。
- ・生活におけるデザインの価値を再発見するとともに、新しいアイデアにつながる幅広い活動を展開。

○交流の場の提供

- ・展覧会を鑑賞する人だけではなく、すべての人が気軽に訪れることのできるオープンな空間や緑地をそなえた、広場としてのミュージアムをめざす。
- ・ハード(建物)とソフト(活動)の両面においてこころよい、憩いの場を提供。
- ・観光と結びつき、都市の魅力向上に貢献する。



3. 新美術館の施設整備方針

(1) 施設整備の基本的な考え方

○利用者目線による整備

- ・ 分かりやすい動線や案内標示、ユニバーサルデザインなど、来館者にやさしい施設とする。
- ・ 展覧会を企画する学芸員の意見を十分取り入れるとともに、メンテナンス性にも配慮し、運営者にとっても使い勝手のよい施設とする。

○まちづくりや周辺施設との連携

- ・ 屋外にはみどりの広場を、建物内には無料エリアを設け、幅広い世代の人が気軽に訪れることのできる空間とする。
- ・ 新美術館の整備にあわせて歩行者ネットワークを整えるなど、来館者のアクセス向上につとめる。
- ・ 建物のライトアップなど光の演出を検討し、中之島における水と光のまちづくりに貢献する。

○防災・防犯対策の実施、環境への配慮

- ・ 多くの方が利用する施設として、また、貴重な美術品を展示・保存する施設として、防災対策を徹底する。
- ・ さまざまな展覧会に対応できるよう「美術品政府補償制度」や「公開承認施設」が定める施設要件を備える。
- ・ 自然エネルギーの活用や省エネルギー化に取り組み、環境に最大限配慮した“スマートミュージアム”をめざす。

※美術品政府補償制度：

展覧会の開催を支援し国民が美術品を鑑賞する機会を拡大することを目的として、公益的な展覧会のために海外等から借り受けた美術品に損害が生じた場合に、その損害を政府が保証する制度。

※公開承認施設：

一定の管理水準を満たしている博物館・美術館について、文化財（国宝・重要文化財）の公開にふさわしい施設として文化庁長官が承認するもので、承認を受けると企画展における公開手続が簡素化される。

（２）新たな事業スキームの導入

○徹底した民間活用（サービス施設等）

- ・レストランやカフェ、ミュージアムショップといったサービス施設は、来館者の満足度を向上する上で、重要な役割を果たす。

新美術館のサービス施設については、民間ノウハウを最大限活用するような事業手法（敷地の一部を事業定借するなど）を採用することで、魅力的な施設となることをめざす。

○中之島4丁目の一体的なまちづくり

- ・中之島4丁目には、美術館用地のほかにも大阪市が所有する未利用地があることから、今後、マーケットリサーチ（市場調査）などにより民間ニーズの把握につとめ、中之島の活性化に向けて、新美術館を核とした一体的なまちづくりについて検討する。
- ・エリアの一体性や良好な都市空間を誘導・担保する都市計画的な手法（地区計画など）についても導入を検討する。



＜中之島4丁目の市有地＞

【参考】施設整備の概要（案）

項目		備考
【施設整備費】	121億円	設計・監理費／工事費／備品購入費
項目		備考
【延床面積】	15,000m ²	－
内訳	コレクション展示室	2,200m ²
	企画展示室	1,200m ²
	コミュニケーション	2,100m ²
	保存・研究	2,500m ²
	管理・共用	7,000m ²

（駐車場及びサービス施設は含まず）

※今後、新美術館の活動内容について具体的な検討を進めるとともに、別途検討を進めている市立美術館の改修計画や工事費の変動等も踏まえながら、施設整備の概要を決定します。

4. 新美術館の運営方針

○地方独立行政法人のもとで柔軟な運営

- ・博物館施設は地方独立行政法人のもとで機動的な運営をめざす。
- ・新美術館についても地方独立行政法人のもとで運営し、コンテンツの充実やサービスの向上、柔軟な経営を行う。

○市立美術館や東洋陶磁美術館との一体的な経営

- ・市立美術館や東洋陶磁美術館とは企画、人員、運営面等で一体的な経営を行う。

○国立国際美術館や市立科学館との連携

- ・国立国際美術館や市立科学館と連携して“ミュージアムトライアングル”を形成し、中之島の文化芸術エリアとしてのブランド化に貢献する。

○国内外の美術館との連携

- ・新美術館のコレクションは、これまで、延べ2,500点以上の作品が700カ所以上の美術館（海外の美術館42カ所を含む）に貸し出されている。
こういった取組みにより形成してきたネットワークを最大限活用し、魅力ある企画展を実施する。

○サービスの充実

夜間開館の実施／ボランティアの活用やメンバーシップ制度の導入／観光施策との連携／
周辺施設や企業との連携／寄付などによる新たな収入確保 等

5. 今後のスケジュールと開館までの取組み

(1) 今後のスケジュール

◎新美術館は、大阪の新たな観光拠点として、**2020年度（H32）までの開館**をめざす。

「大阪の観光戦略」において、2020年までを計画期間として、来阪外国人旅行者数を650万人とする目標を掲げている。また、2020年に東京オリンピックの開催が予定されている。

(2) 開館までの取組み

○整備の進捗状況のお知らせ

ホームページに最新情報を掲載し、プレスリリースを積極的に実施。

○新美術館の名称

新美術館にふさわしい名称やロゴ・シンボルマークを検討。

○コレクション展示の開催

コレクション展示を市内で定期的に行うほか、国内の美術館においてコレクションの巡回展示を実施。

○コレクションの研究と発信

コレクションの調査研究を進め、その成果を発信するとともに、アーカイブの構築準備に取り組む。

○普及啓発活動の実施

ワークショップやフォーラムを通じ、新美術館の活動を市民とともに創る。

○大学や周辺企業との事業連携

コレクションの調査研究などにおいて、開館前から大学などの研究機関や周辺企業と連携。

○寄付等の募集

新美術館の整備には市民の理解と協力が必要であり、寄付を広く呼びかけ、市民の熱意に支えられた美術館をめざす。